

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2190400016
法人名	有限会社 羽島企画トータルケアMama's
事業所名	グループホーム ママーズの家
所在地 (電話番号)	〒501-6234 岐阜県羽島市竹鼻町駒塚4番地1043 (電話) 058-394-3366

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒501-6232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年9月18日

【情報提供票より】(19年 9月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19 人	常勤 8 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 10.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2		名	
要介護3	5	名	要介護4	2	名	
要介護5	2	名	要支援2		名	
年齢	平均	79.7 歳	最低	63 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩佐医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームママーズの家は、羽島市の中東部に位置する周りを田園地帯の中でモダンな外観の建物である。通りに面して大きな看板があり、母体である羽島企画が行なっている全ての事業がわかりやすく説明してある。施設はデイサービスが併設されていて、施設内からは明るい笑い声が聞こえて来る。天井が高く、また、大きな窓が幾つも設けられており、自然光が部屋一杯にふりそそいで、清潔感に加え温かみが伺える。スタッフは、管理者をはじめ、介護に熟知した人が配置されており、理念に沿ったケアを目指している。また、十分なケアができるよう人員を配し、夜勤や早番、遅番等の仕事の配分を考えた勤務体制を敷いているのが大きな特徴といえる。利用者は、車椅子での生活者が殆どだが、みんな活き活きとして日々の生活を楽しんでいる。入浴はデイサービスの大きい風呂を利用しており、ゆったり入れるので利用者は楽しみにしている。散歩や買い物等日常的に行なうことは困難な状況だが、月1回の定期的な花見や神社参り、道の駅などの外出は訪問・デイのスタッフの支援を受けて実施している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価はなし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めての受審であり、最初の取り組みから全職員に十分な説明をしたうえで、管理者を含め全職員で自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、規定どおり2ヶ月に1回のペースで開催している。参加者は、自治会の代表者、地元民生委員、市役所福祉課職員、羽島企画代表取締役、管理者、ケアマネジャー、家族の代表者であり、回を重ねる度に活発な意見が出るようになっていく。今までは、ホームの概要や認知症の理解、ケアの状況等を中心に説明や報告をしており、参加者の理解が高まってきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームが郊外にあり、公共交通機関は通っていないが、比較的車での便がよいこともあり面会者が多い。その面会のときを捉えて、家族の意見や提言、不満等を聞きだすことを職員間で話し合い、工夫をしている。また、運営推進委員会においても家族代表者の意見もあり、運営推進会議の意見等は、職員会議で話し合い、やれるものは直ぐに実施し、検討が要するものは、出来るだけ早く行なう体制をとっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初の運営推進委員会から、地域自治会代表者や地元民生委員が参加しており、地域とのパイプ役になっている。その人たちからの紹介で、絵手紙の講師やボランティア等が、常に施設を訪問していて、日々の生活の中で、地域との関わりが出来ている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体である羽島企画は、福祉に関係する事業を以前から行っており、理念は、利用者を尊敬するとともに尊厳を重んじたものになっている。また、ケアについても思いやりを重視した文面になっている。	○	今回の介護保険の一部改正で、地域密着型サービス制度が導入された。その基本方針で、グループホームの役割を家庭的な環境の下及び地域住民との交流の下で、その人らしく暮らし続けることを支援するとなっており、理念の中に地域との関わりをあらわした文が明示されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送りのときに、常にみんなで理念を話し合っている。管理者及び職員全員が、理念をよく理解し、日々の支援を楽しく行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当時から、運営推進会議に地域自治会の代表者や地元民生委員が参加しており、その人たちが地域とのパイプ役になって、地域のふれあいサロンやお祭りに子どもみこしがわざわざ施設に回ってくれたり、地域とのつき合いも順調に進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して初めての自己評価並びに外部評価である。管理者は、評価の意義を職員全員に説明をして、理解を求めている。今回の自己評価に当たっては、職員全員で取り組み、更に職員同士で話し合って提出にいたっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、規定どおり2ヶ月に1回のペースで開催している。これまではホームの概要や認知症の理解、支援の状況等を説明、報告をしている。回を重ねるたびに参加者から活発に、積極的に意見が出るようになっていく。	○	運営推進委員会に話し合う議題に苦労していると思われるが、自己評価の説明や職員が気づいた点等を報告したり、外部評価の結果を報告したりして、委員会を施設のモニター役として、今後更に、運営推進委員会が充実されることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設時に、市役所福祉課に相談を持ちかけて以来、今日まで様々な機会を捉えて、情報の交換や課題等の相談、話し合いをして、サービスの向上に反映する取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、発行しているマザーズの家ホーム便りや定期的に出している手紙等で、家族に利用者の状況を知らせている。また、面会時には同席し、日々の暮らしや健康状態、金銭管理等を報告するとともに、意見を聞き出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ手紙、電話、訪問時等で情報を交換し、また、家族会等で意見を出しやすいよう工夫しており、出された意見等はミーティングで話し合い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者や管理者は、利用者や家族等と信頼関係が安心に繋がることを理解しており、職員全員も信頼関係を築く努力をしている。また、職員の異動についても極力少なくする配慮をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内のミーティングや研修会は職員全員が参加できる時間帯を選んで実施している。また、外部研修等については、開設して間もないので全員の受講に至っていないが、順番を予定し、できるだけ多くの職員が受講できるような体制を組んでいる。研修会の報告書は職員全員が閲覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に入っており、情報交換を行なっている。また、地域のグループホーム交流会にも参加しており、他の施設の状況や施設の課題を話し合い、サービスの質の向上に反映する取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の希望者及び家族には、相談をはじめ、施設見学及び体験入所を実施するなど、少しでも慣れていただくような取り組みを行なっている。また、直ぐに利用するようになった場合は、家族やそれまで関わってこられた人たちに来ていただき、利用者本人や家族等に安心感を与える工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と日々一緒に生活し協働する中で、支え支えられる関係づくりに努力しており、常に利用者を本意におき、優しく、穏やかな接し方をしている。また、利用者から色々な経験ごとを学び、教えてもらう姿勢を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との会話の大切さを知っており、様々な場面で、利用者の思いや意向を聞き出す努力をしている。会話の出来ない利用者には、その表情や問い掛けたときの目の動きなどを察知し、家族に相談して、利用者が何をしたいか、日々をどう暮らしたいかの確認をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者にとってホームは第二の我が家であることを認識し、そこでの暮らしをどう過ごしたいのかを基に利用者本意の介護計画を作成している。作成にあたっては、職員全員で検討会を開き、本人の希望は勿論、家族の意見や意向を反映させている。また、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは当然のこととし、日々の暮らしの中で気づいたことや関係者の意見等を検討会で話し合い、その場面に一番適した支援を実施する取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接しているデイサービスの行事に参加したり、大きな風呂を利用したりしている。また、家族の状況に応じてかかりつけ医やなじみの美容院の送迎を行なっている。外出には訪問・デイのスタッフが支援に加わっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族には入居時にかかりつけ医とホームの主治医については詳しく説明をし、本人や家族の希望を聞いている。現在は殆どどの利用者がホームの主治医にかかっている。ほかに眼科や歯科等専門医の受診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの利用者が高齢であり、介護度の高い重度の人が多いため今後、重度化することの不安や終末期のことを対する相談が出てくる状況を考え、また、本人や家族の意向を踏まえ、更に施設のケアの力量等を考慮しながら、今後の方針について、主治医と相談しながら、検討を進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員は理念を熟知しており、利用者本人の尊厳を尊重し、常に尊敬の眼差しで接している。また、プライバシーについては、親会社が倫理規定を作成しており、職員はそれにそって日々の支援をしている。ミーティングや勉強会でプライバシーの確保についてもお互いに注意し合って行動している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは持っているが、利用者に希望やペースを合わせる取り組みをしている。日々の暮らしの中で本人の体調や気分を観察し、本人がやりたいことを優先に支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者が1日のなかで、食事を最も楽しみにしている一つであることを理解し、ゆっくと優しく介助している。また、利用者の体調に合った食事の準備が出来る。車椅子の人が多いため、食事の後片付け等、僅かであるができることを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴も利用者の喜びことの1つである。車椅子の利用者が多いため、デイサービスの大きな風呂を利用し、機械浴でも安心して入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度の利用者が多いため、任せる役割は少ないが、楽しみ事は多く取り入れている。デイサービスでリハビリや諸行事に参加したり、地域の老人クラブのふれあいサロンに出たり、ボランティアによる音楽等を楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の利用者が多く、日常的に散歩や買い物をする事は困難な状況である。職員は施設に閉じこもることが無いように、天気の良い日には、必ず、庭に出るよう配慮している。 また、月1回定期的な行事として、デイのスタッフの支援を得て花見や道の駅等々の外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵のかけない重要性を、職員は充分、理解しており、夜の面会時間終了以降以外は鍵はかけていない。また、職員の見守り方法を日常的に話し合っており、また、利用者一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、自由な暮らしができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが整備しており、避難訓練を近々に予定している。管理者は災害についての重要性を理解しており、避難訓練、初期消火訓練には前向きである。	○	この評価項目は、地域密着型サービス制度で出来たもので、地域とのふれあいや地域住民の協力を具現化することが求められているものである。近いうちに消防署の協力を得て、避難訓練等を予定しているが、自治会や民生委員に働きかけ、地域の人たちに参加していただき、地域住民との交流を図りながら、みんなで実現されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分量は毎日、正確に記録しており、その情報を職員が必ずチェックしている。栄養バランスについては、定期的に栄養士にチェック及びアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は天井が高く、明るく清潔さが保持されている。また、テーブルの高さ及び椅子の高さ等、利用者一人ひとりに合わせる工夫をしており、利用者にとって使い勝手の良いものとなっている。また、廊下にソファを置いて、訪問者や利用者がひとりになりたいときに利用しており、全体的に居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、家族や関係者の面会等に十分な広さを呈している。また、利用者がなじみの調度品を持ち込んでおり、写真を飾ったり、自分の作品を置いたり、それぞれのお気に入りの、居心地のよい空間となっている。		